天地　ネットワークテーブル　５４３ 号

天地シニアネットワーク　２０２３．５．１６

TENTI・TODAY （受信メール）「秦野の湧水」「瑞陵高校；旧愛知５中」			1
会員の広場			3
随　筆	「日々をいとおしみて」より「人間であることをやめるな」	宮川典子	3
評　論	「安倍晋三回顧録」を読んでーその２	臺　一郎	4
歴　史	杉原千畝の日本通過ビザを持って日本に押し寄せて来たユダヤ難民の人名保護と彼らの最終目的地への渡航に協力した日本人たち（６・最終回）	佐川雄一	8
歴　史	「了解日本（日本を知る）」（１０）「江戸文化の中の明・清文化	兪彭年	11
回　顧	有楽町慕情（７）「軍に協力、そして終戦」	津田孚人	13
講演会のご案内・新三木会			15
事務局			16

****

ＴＥＮＴＩ　ＴＯＤＡＹ

****

Ｇ７サミットが近づき、岸田首相の内外を駆け巡る気力、体力は、歴代首相には無かったものと、評価できます。残念なのは、説明が一方的で、理解しにくいことです。折しも、米国タイム誌の表紙に、首相の顔写真と、「軍国主義の道へ」との見出し。十分な討議も説明も無しに、方針を決定していく手法が誤解を産むようです。

****

米中間の緊張が増しています。半導体の生産工場としての台湾の立ち位置が複雑で、根源の一つには台湾問題があるようです。衝突はせず対立したままの緊張がしばらく続くと思いますが、最近出版された「半導体有事（湯之上隆著・文春新書）」、はこの問題を理解するのに大変参考になります。

****

チャット「ＧＰＴ」、の論議が急速に進んでいます。実用化を決めたところもあるようですが、拙速のきらいもあります。ＮＨＫのテレビでニュースなどで、合成音声で読み上げているときがありますが、すぐ気付き個人的には馴染めません。チャット「ＧＰＴ」も、未だテスト段階で、本格的な採用は、待った方が良いと思います。

****

兪彭年さんの「了解日本（日本を知る）」は、中国人向けの著作です。兪さんは、当該本を天地で使ってくださいと、数十冊寄贈してくれました。すでに、日本語で書かれた、「日本人社会、その特性」の部分は、天地に掲載し、終わりました。現在、中国語による日本史部分を掲載中ですが、日本語に訳す作業も大変な上に、内容が、

日本人の知識を超えたところが多いので、苦労は大きくなります。
兪さんは、上海在住で、教育者としては中国では有名です。兪さんの著作で学ぶ中国人は多く、したがって日本歴史に関する知識は、ある部分では日本人を上回ります。この、逆ギャップ、日本人は気が付きません。中国では、日本は、中国からの仏教、文化の伝達、で栄えた国、という歴史観が常識となっているに違いありません。
****
先日、定年退職者が１０数名集まる会がありました。最年長者として、戦後の経済状況をと、急に指名されましたので、「第一生命館」のことを話し、当時の石坂泰三社長のことに触れました。戦後、石坂さんは、東芝の社長になり、経団連の大御所となって著名人でしたが、驚いたことに、参加者の大半が石坂泰三を知りませんでした。長嶋、王を知らない時代ですので、不思議ではありませんが、忘れっぽい日本人、困ったものです。
****
「アルガンオイルを使った料理を楽しむ会」が新宿高島屋・６F「茶話（ちゃゆー）」でありました。在モロッコの大学時代の仲間、岸さんの紹介で、天地シニアで１５年ほど前からアルガンオイルを扱い、紹介してきました。飲食、化粧両用の、最高のオイルですが、国内の認知度は低いのが残念です。最近は、ヨーロッパ、中国などの積極的な購入で現地価格高騰、品不足になっているとのことで、心配しています。
****
受信メール
****
天地シニアの永年の継続、大変なことと存じます。今後ご活躍祈ります。「我が町秦野の歴史と現在」で紹介した**「秦野の湧水」**は、環境省の名水百選で全国一位となっています。秦野の経済に寄与するには、どうしたらよいかと頭を悩ましています。お知恵をいただければさいわいです。市民の方には現在のままでも良いといわれていますが・・・。　（秦野市・北林・８５歳）
****
　杉原千畝の連載は、私が卒業した高校**（瑞陵高校；旧愛知５中）**の大先輩でもあるので興味深く拝読しています。コロナ禍前は、杉原氏の業績を辿るため、よく高校生が夏休みにリトアニアやポーランドへ研修旅行に出かけていたようです。2018年 10 月に高校の敷地内にセボン・スギハラ・メモリアという小さな施設が設置されましたが、私はまだ母校を訪問していません。
　「有楽町慕情」もしっかり拝読させていただいています。今回『帝国ホテル建築物語』の著者・植松美十里さんの夫は、北大水産学部卒（私よりも7期下）で日本海洋学会の会長も務めました。彼は大阪の理髪店の息子で、研究で一緒に船に乗ったことが何度かありますが、快活な学生でした。こんなつながりもあるのですね。
　（２０２３．４．２６）　（北海道函館・志賀・７５歳）
****
新聞・雑誌などを読んでいると、日本語だか英語だか訳の分からない言葉－単語がでてくる。
コンプラ（コンプライアンス）、レスカ（レモンスカッシュ）、ショッポ〈ショートホープたばこ〉ドラレコ（ドライブレコーダー）、トレカ（トレーディングカード）、アカハラ（アカデミックハラスメント）、ヘビメタ（ヘビーメタル　音楽）、タイパ（タイムパフォーマンス）などなど。
言語の乱れ？あるいは言葉の進化？理解に苦しむ

（横浜市・大須賀（８５歳））

****

会　員　の　広　場

****

エッセイ集　　宮川典子（９４歳）　「日々をいとおしみて」（２０２２年１１月）より

「人間であることをやめるな」

２０２１年１月、半藤一利が亡くなった。１９４５年、太平洋戦争末期の３月９日深夜、東京下町はアメリカ空軍の大空襲を受けて、向島に住んでいた半藤も、上野に住んでいた私も共に家を焼かれた。あれから７６年、同じ世代の彼の死に心から哀悼を捧げる。

私が小学校３年生だった１９３７年、盧溝橋事件が起こり、それを機に日中戦争が始まった。新聞、ラジオ、映画では、日本軍が各地で連戦連勝と勇ましいニュースばかりだった。今でも目に浮かぶのは、中国の主要都市を占領した時に走らせる花電車だ。それはイルミネーションに輝く豪華な花を、車体一面に飾り付けてあった。こんな強い日本に生まれてよかったと思った。

しかし、日中戦争が一向に終わる兆しもないのに、１９４１年１２月、日本は米英に宣戦布告した。ラジオで臨時ニュースが流れ、日本海軍がハワイの真珠湾を攻撃して、大勝利を収めたという。女学校一年生の私は登校後級友一同と大はしゃぎした。その前年、日本は建国２６００年を祝い、我が国は神が治める神国だと国民の大部分が信じた。天皇は、現人神（あらひとがみ）だと教えられた。そしてこの聖戦を勝ち抜こうとの団結心が、全国にゆき渡った。

けれど優勢だったのは最初だけ、物量豊かなアメリカに勝てるはずはなく、次第に戦況は厳しくなる。私は 5 年制の女学校に入学したのだが、4 年で卒業と変更させられる。その上、4 年生の 6 月から授業は一切なく、工場で兵器の生産に従事した。集中力、記憶力の旺盛なこの時期、勉学を閉ざされたことは後々まで災いしている。男子大学生は一層悲壮であった。徴兵制延期がなくなり、戦地に赴き、若い命を落とした者が多数いる。母のいとこもその一人で戦死した。

こんな無謀な戦をなぜ続けたのか。折しも半藤一利が、生前書き留めておいた本が出版された。「人間であることをやめるな」というタイトルだ。彼は日露戦争後の日本の進む道が間違っていたと鋭く指摘する。膨大な戦費を使ったのだから、無理して大国の仲間入りをするべきではなかったと。確かに日清、日露両戦争における軍人は、知略に長け勇猛であった。しかし大正時代の第一次世界大戦後、国際連盟が生まれ、軍縮会議で日本は主力艦の少なく決められた。それが不服で連盟を脱退し、一層大国を目指すようになった。昭和に入ってからの指導者や軍部は、満州に進出したりなど、まさに方向を誤った。

半藤が推奨する東洋経済社の石橋湛山は、「これからは平和主義と経済中心で、国民を豊かにするように」と早くから唱えていたそうだ。後に総理大臣になる湛山が、病のため僅か2か月でその座を去ったのが、残念に思われる。
半藤一利著「人間であることをやめるな」の題目は、最後の章に出て来た。宮崎駿監督の「風立ちぬ」の中に、半藤のその気持ちが込められていた。「現在も日本は様々な問題を抱えている。きちんと行く末を考えよ。人間であることをやめるな」との半藤の気持ちがひしひしと伝わってくる。

8月15日の終戦の日を間近に、半藤から得た教訓は貴重であった。今、コロナ禍非常事態宣言下に行われるオリンピックが終わった時、日本はどんな状況だろうか、経済は？北朝鮮、中国の問題は？その時こそ、日本国民の賢明な生き方が問われるであろう。

****

「安倍晋三回顧録」（中央公論新社）を読んでーその２ー

臺　一郎（７４歳）

本稿は故・安倍晋三氏の回顧録についての読書感想文の続きである。前回も書いた様に、この本は本文が 450 ページ以上もあって、安倍氏が首相であった 8 年近い期間の内政、外交、安全保障など多岐にわたる政策や活動の概要、政治的判断、他国首脳の人物像、会談時のエピソードなどがてんこ盛りである。もし本に書かれた内容をきっちり紹介しようとすると、ページ数で1割にまとめても 50 ページ近いボリュームになってしまう。よって全体の内容紹介は諦めて、自分が興味を抱いた切り口でのみ部分的な内容紹介を行った。

安倍晋三元総理と言えば、その類い希な外交能力や、“自由で開かれたインド・太平洋構想”に象徴される効果的で説得力に富んだ構想や戦略の発想提案力が国際的にも高く評価された政治家である。安倍氏は第一次政権を含む約 7 年 8 ヶ月間の首相在任中に、合計 98 カ国、196 地域の海外首脳と面会し会談した。勿論歴代総理の中では断トツに多い。また直接面会しての会談の他に、電話での会談も多数行っており、特に 44 代のオバマ、45 代のトランプという二人の米国大統領とは

かなり頻繁に電話会談を行っている。
　以下では安倍晋三回顧録で安倍氏が語った主要各国の首脳の印象などのうち、我国にとって最も重要な同盟国である米国のオバマ大統領とトランプ大統領について、本文に語られた人物像、印象、会談時のエピソードなどを紹介したい。

オバマ大統領
　2014 年 4 月、米国のオバマ大統領が来日をした際の夕食会は東京の「すきやばし次郎」で行われた。海外から各国の首脳や要人を迎える際に、歓迎夕食会の会場をどこにするのかは総理にとっても外務省にとっても結構頭を悩ます問題らしい。この時の「すきやばし次郎」は外務省が決めたようだ。会場が「すきやばし次郎」だと知った大統領補佐官のスーザン・ライスは、当初の出席予定者には名前がなかったにもかかわらず、急遽自分も参加したいと言ってきたという。
　安倍氏は回顧録の中で、「米国のセレブの中には“すきやばし次郎”など老舗の鮨屋で鮨を食べるためだけに、プライベートジェットで東京に来る人もいる」という話を紹介し、それ故に、ライス補佐官の突然の参加要求にも特に違和感は感じなかったようだ。
　ちなみにオバマの次の大統領トランプは肉好きで、かつ派手な場所を好んだことから、安倍総理の判断で銀座の「うかい亭」で鉄板焼きを振る舞ったという。

　さて夕食会でのオバマ大統領は、店のカウンター席に着くなり、雑談もせずにすぐに仕事の話しを始めたという。IQ が高く、無駄を嫌う合理主義者のオバマらしいエピソードだ。
　この夕食会の席で、オバマは安倍が支持率も高く、自分より政治的基盤も強いので TPP に関しては日本が譲歩して欲しいと要求した上で、更に「自分はこの店に来るまで東京の路上でアメ車を一台も見ていない。これはなんとかして欲しい」と言い出したという。
　安倍首相はオバマを店の外に連れ出して「通りを観てください。ベンツ、BMW、アウディ、フォルクスワーゲンなどの独車は沢山走っているのに、米車は全くいないでしょう。何故か。独車は右ハンドル車も投入しているが、米車は左ハンドル車しか売らない。独車はテレビ CM も積極的にやっているし、東京モーターショーにも出展しているが、米車は CM もやらず出展もしてない。そういう努力をしなければ米車が売れるはずがないでしょう」と言ったら、オバマはそれっきり黙ってしまったという。

　オバマ大統領を「すきやばし次郎」での夕食会に招いたことは、当時テレビニュースでも取り上げられたので僕の記憶にも残っている。また、オバマが出された鮨をあまり食べなかったという話しも聞いた記憶がある。僕は「オバマは鮨が嫌いなのかな」などと思ったが、実は夕食会冒頭に安倍首相にガツンと一発厳しいクレームをつけて以後の首脳会談を自分優位に運びたいと目論んだのが、逆に安倍氏から見事に切り返されてしまい、落ち込んで食欲がなくなってしまったというのが真相だったのかも知れない。

　同じ 2014 年の 6 月、ベルギーのブリュッセルでサミット＝G7 首脳会議が開催された。このサミットは、本来ロシアのソチでロシアも含めたＧ８で開催の予定であったが、サミット開催に先立つ２月、ロシア軍がウクライナのクリミア半島に軍事侵攻してしまったことから、日本も含む西側各国の反対でソチでのサミット開催が中止となり、急

遽 EU 本部のあるベルギーのブリュッセルでロシアを除いた G7 での開催となった。
サミットの円卓会議では、ロシアによるクリミア侵攻が大きな話題となった。米国大統領として出席したオバマは、会議冒頭に突然ロシアに対する制裁案のペーパーを自ら各国首脳に配り始めたという。慣例となっているシェルパによる事前調整無しの異例の行動であり、会議は荒れ模様となった。
ドイツ首相のメルケルが安倍首相に「日本はどうするの？」と聞いてきたので、安倍氏は「日露は今領土交渉をしているから制裁案には乗れないが、ロシアに対して、武力による現状変更への非難表明の文書をまとめることを提案したい」と答えたという。
メルケルなど他の首脳もそれで了承となり、オバマ大統領もその辺が落としどころと思ったようで、安倍首相の意見を受けいれ、制裁案は発表しないことになった。
メルケルがオバマに「今配った制裁案の紙は回収した方が良いんじゃない？」と言うとオバマは直ぐに各国首脳の間を回って制裁案を書いた紙を回収したという。プライドが高く、ちょっと冷たそうで腰の重そうなオバマ大統領が自ら制裁案のペーパーを配ったり、せっせと回収したりしている姿を想像すると、ちょっと滑稽な感じがして笑ってしまう。

二年後の 2016 年 5 月 26 日には、三重県の伊勢志摩でサミットが開催された。当日安倍首相は伊勢神宮の内宮入り口にある宇治橋の手前で各国首脳を一人ずつ迎え、二人で橋を渡って内宮に入るというセレモニーをやった。
オバマ大統領は不機嫌な表情で予定より遅れてやってきて、宇治橋を渡る間中、前日の記者会見で安倍首相がオバマに言い渡した要求やクレームについて文句を言っていたらしい。サミット開催の少し前に沖縄で米軍の軍属が地元の女性を殺した事件について、記者から「どう思うか」と聞かれた安倍首相がオバマ大統領に対して、「こういうことは二度と起きないようにしてもらいたい」と強く要求したことでプライドがひどく傷ついたオバマが、「あの言い方はひどいじゃないか」と文句と不満を言い続けたらしい。
テレビニュースで各国首脳が安倍首相と談笑しながら宇治橋を渡っている様子を観て、こんな時に首脳たちは何を話すのかなと思ったが、オバマはそんなことを話していたのかと知り、なんか器量の小さな男だなと思うのは僕だけではないだろう。

トランプ大統領

2017 年 11 月 5 日の米国大統領選では、大方の予想を裏切ってドナルド・トランプがヒラリー・クリントンを破り第 45 代の米国大統領に決まった。このニュースを知った安倍首相はトランプに対して世界のどの国の首脳よりも早く当選を祝う電話をし、「自分は 11 月 17 日に APEC の会議出席のためにペルーのリマに行く。途中で専用機が給油のためニューヨークに立ち寄るので、会えないか」と面談を申し込んだ。トランプは OK してくれたので、これまた、世界各国の首脳の中で誰よりも早くトランプに会って会談できた。

この時点（2017 年 11 月 17 日）で米国の正式な大統領はバラク・オバマであり、トランプはあくまで次の大統領予定者であった。だから、「自分がトランプと会うことでオバマは気分を害するかもしれないと思ったが、日本の国益のためと割り切ってトランプとの面会を決断した」と安倍氏は語っている。
面談は 90 分に及んだが、初対面でトランプはじっと安倍氏の話を聞いたので、

「想像したよりも謙虚な人だ」と安倍氏は感じたという。また「この面会をしたお陰で、後々自分とトランプ氏は特別な人間関係を築くことが出来たと思う」とも述べている。

安倍氏が亡くなってから、安倍氏と旧知であった外務省幹部の回想文を読んだら、その人も同席したトランプタワーでの初めての面会について、「外交官でも政治家でもなかったトランプにとって、主要国の首脳との直接会談は全く未経験であったが、安倍総理とのスムーズな面談で、自分にも米国の大統領が務まりそうだという自信を持つとともに、安倍氏に対する好印象を持ったのではないか」と書いている。

トランプ大統領はかなりの話し好き、電話好きで、首相在任中の安倍氏にも頻繁に電話をかけてきたという。安倍氏は前任のオバマ大統領とも何度も電話会談をしたが、だいたい 15 分から長くて 30 分位で終わり、本題以外の雑談や余談は殆どしなかったという。

その点、トランプからの電話は一時間ならまだマシな方。長いと一時間半位になったという。しかもそのうち本題については 15 分程度でさっさと切り上げ、残りはトランプが大統領として会談した各国首脳の批判やら、趣味のゴルフの話しなどだったと言う。さすがの安倍首相も「恋人じゃあるまいし、一時間半も電話してくるなんて変わった大統領だ」とあきれ気味に述べている。

トランプの頻繁な長電話について安倍氏は、「トランプはアメリカファーストを貫きながらも、時にこの政策で大丈夫だろうかと不安になる事があったのだと思う。そんな時私の意見を聴こうと電話してきたのではないか」と述べている。またトランプが安倍氏をこのように信用したことについては、「二人の人間的な相性（ケミストリー）が合ったことに加えて、前述したようにトランプが大統領に当選した際にすぐに電話をかけ、その後 11 月 17 日にトランプタワーへ出向いて面談したからだろう」と述べている。

2017 年の 2 月、安倍総理はワシントンを訪れ、トランプ大統領と日米首脳会談を行ったが、そんな時でもトランプの話は全く想定通りにはいかなかったという。安倍氏は「彼は事務方が作成したメモや資料を一切持たずに会談に臨む。だから日本側の作成した資料が全く役に立たず参った」と述べている。

このときの会談では安全保障問題や貿易問題が話し合われたが、会談後の記者会見に先立って、オーバルルームで安倍氏が「会見では貿易赤字の犯人として特定企業（例えばトヨタ）の名前は決して出さないで欲しい」などと要望したら、トランプは以後大統領任期中、一切出さなかったという。

ワシントンでの首脳会談の後は大統領専用機でフロリダに移動し、トランプの別荘に滞在して二人だけで二日間にわたりゴルフをした。超多忙な米国大統領からは 10 分間の面会時間を貰うだけでも大変なのに、二日間にもわたって二人きりの時間を持てたのは、二人の趣味がゴルフであったからだろう。日本国にとって、安倍氏のゴルフは国益にかなった趣味だったと言えるのではないか。

既述したように、トランプは任期中米国第一主義の姿勢が強かった。安倍氏は「通商貿易等に関して自国第一主義ならまだ許せる。けれども安全保障政策でそれをやり、国際社会で米国がリーダーの座から降りてしまったら、世界は紛争だらけになってしまう」との危機感を持ったようだ。そこで安倍氏は「国際社会の安全は米国の存在で保たれている」とトランプに繰り返し、繰り返し言ったという。

また、安倍氏は「米国の国家安全保障会議（NSC）の面々も全く同じ意見だったようだが、トランプは事務方の意見を全く聞かない。そこで、自分（安倍氏）を利用してトランプの考え方を改めさせようとした」と述べている。日本の総理が米国の大統領に少なからぬ影響を与え続けたと思うと、ちょっと気分が良い。

ともかく大統領としてのトランプは、型破りというか非常にユニークな人だったので、安倍首相との会談や電話会談時に限っても信じられないようなエピソードや言動は枚挙に暇がなさそうだ。電話会談などでは、おそらく安倍氏もさすがにちょっと公表できないような非常識な発言があっただろうことは容易に想像できる。

オバマ大統領やトランプ大統領以外の各国首脳についての人物評や印象などは現物の安倍回顧録をお読みいただきたい。
今や悪の権化のように評判が落ちたロシアのプーチン大統領、最近ますます独裁者的になって西側各国が警戒している中国の習近平主席、8 年以上にわたりドイツの首相を務めたアンゲラメルケル、安倍氏の国葬に現前元の４人の首相および首相経験者を送り込んできた豪州の首相たち、それぞれの人への思い出やエピソードが語られている。
****

リトアニアで１万人のユダヤ難民に日本通過ビザを発給、
彼らを窮地から救済した日本の外交官；杉原千畝とはどんな人だったのか
佐川雄一（８６歳）

第６回　（最終）
杉浦千畝は、なぜ！国際社会から崇められる日本人に変容したのか
私は、杉原が、どのようにしてコズモポリタンに変容していったのか！なぜ！人道と博愛の精神でユダヤ難民の救済を決意できたのか！今尚、正しく評価できずにいるが、彼の幼少期、青年期、満州での 15 年間を探れば何らかのヒントが得られるかもしれないと考えた。

日清・日露戦争に勝利し、第一次大戦を経て、国際連盟常任理事国になり、日本は形式だけは一等国になった。不必要な驕りに酔いしれた軍部・政治家・官僚・産業界が暴走を始める狂奔の時代に、官界のエリート層に属さず肩書的には脇役に過ぎない杉原が、後世、世界から高く評価される崇高な行動を起こす。尤も、杉原は、自分が後世、世界の人たちから崇められる偉人になろうなどとする野心は毛頭なかったし、異能な家庭に育ったわけでもない。
1925 年、ハルピン学院特修科を終了した後、杉原は複数の機関（外務省、ハルピン学院、内務省、満鉄調査部、陸軍参謀本部、満州独立後は満州国外交部）で重複して働くことになるが、時が経つにつれ、中国人を蔑視する日本軍人・エリート層の態度に強い反感を覚えるようになり、15 年続いた満州での生活に別れを告げることになる。そして日本人の代名詞；“**世界で最も均質的**” と言われる殻を打破して主君を持たない一匹狼的な存在に変身していった。

満州・ヨーロッパでは、日本から派遣された軍人が跋扈していたが、杉原の存在感は

彼らとは明らかに異なっていた。しかし、現場のトップは杉原の知力・語学力・人間力を高く評価していた。北満州（東清）鉄道の利権を巡るソ連政府との交渉において満州国外交部次長；大橋忠一は杉原の交渉戦略・語学力を高く評価し、幅広い分野で杉原を活用した。駐独大使；大島浩は、しばしば、杉原をベルリンに呼んで現地の諜報活動を聴取していた。杉原の胸襟を広げて地場社会と接する度量の大きさが影響したのか、現場の生の情報が詰まっていた。

残念ながら、硬直的な人事制度が幅を効かす日本社会で出征街道に乗ることはできなかったが、それでも不平を漏らすことはなかった。否、**杉原にはもっと崇高な理念があった。日本人も、白系ロシア人、中国人、そしてユダヤ人に対しても同じ人間として評価する“理念”が杉原の心魂に築かれていたのである。こんな背景もあって、杉原には危機に直面した時、単独で行動を起こす“勇気”と“人間の良心”が備わっていた。**

杉原が欧州で勤務したヘルシンキ、カウナス、ベルリン、プラハ、カリニングラード（旧ケーニヒスベルク）、ブカレストの領事館・公使館における諜報活動は、ドイツ軍にすべて監視され、常に逮捕・暗殺のリスクが内在していた。しかも、不思議なことに杉原の職責は、たった一人の公館であっても総領事代理、領事代理と意図的に最下位のレベルに押しとどめられていた。

しかし、職責を最下位にしただけでドイツ軍・ソ連軍を騙せるわけではなかった。こんな混迷状態のなかで、杉原；最後の任地となるルーマニアの首都；ブカレスト転勤の指示が、1941 年 11 月 27 日、本省から杉原に届いた。杉原は家族同伴でベルリンから国際列車で新転任地のブカレストに向かい、同地に 12 月 24 日着任したが、日米開戦の報を聞くと、杉原は、『これで日本もドイツも負ける』とつぶやいた。

これまでの杉原の人生を振り返ると、**杉原千畝は、**

① **後藤新平が創立した日露協会学校（ハルピン学院）に入学、卒業するまでの 6 年間（1919 – 25 年）で、日本人の在り方を学び、**

② **ハルピン学院**特修科**卒業から敗戦そしてソ連抑留の 20 年余（1925 – 47 年）、そのほとんどを満州・欧州（ソ連）で過ごし、軍国主義が主流となったなかで、珍しく冷静で、平衡感覚を失わなかった数少ない日本人であった。リトアニアのカナウス領事館で寝食を忘れてユダヤ難民に日本通過ビザを発給できたのもこのような環境が好循環に作動したが故に実現できた偉業と考えられる。**

終わりに

杉原千畝は、満州での教育と幅広い現地社会との接触を通してコズモポリタンに変容していったが、その結果、杉原は、国籍・宗教・皮膚の色を問わず窮地に陥った人を見たら躊躇することなく支援する、当時の日本社会から見れば異端児であった。

只、杉原には開放的で多様性を備えた人間力があった。いずれも日本人の原型から大きくはみ出していたが、中国人・ユダヤ人から見ると杉原は理想の人間像に映ったのかもしれない。そして、明日を担う日本の青少年が、日本にも世界に向けて胸の張れる人物がいたことを認識できれば、彼らの心の救いと励みになるかもしれない。

最後になるが、杉原千畝は、人間を差別しない慈悲の心で、所持金もない、渡航先

の移住許可ももたない多数のユダヤ人に対し、日本通過ビザを次々と発給した。その後、“杉原ビザ” を持った何千ものユダヤ人は、すし詰めのシベリア鉄道で、“自由”を求め、新天地に向かって移動した。

後年、ナチスドイツによる 600 万のユダヤ人虐殺が明らかになると、世界は人類の文明に良心があったのか自問自答するが、杉原千畝は “困った隣人を見たら助ける”人生道を実践し、結果的には多くのユダヤ人の生命を救った。杉原が採った行動は、世界に範を垂れる稀有の事例として国際社会から高い評価を受けている。

確かに杉原は異質な日本人であったが、ある意味では典型定な日本人でもあった。それは赤穂浪士四十七士のサムライと同じく、主君を持たぬ浪人のまま何の記録を残さず、静かに消え去ったのである。それ故に、杉原の神髄に迫ることは難しく、杉原千畝は今尚、謎に包まれている。

エピローグ

1939 年 12 月、リトアニアのユダヤ人；ソリー・ガノール少年（11 歳）が、カウナスで高級チョコレートやシャンパンを販売する伯母の店を訪れていたとき、杉原千畝と知り合う機会があった。杉原との話が弾み、少年は大胆にも日本人外交官に、親類縁者が集い楽しむユダヤ教の “ハヌカ祭” にご招待を申し出た。

数日後、杉原は妻；幸子、その妹；節子を伴ってガノール少年の両親宅を訪ねた。全く知らないユダヤ人たちのなかに交じって楽しいひと時を過ごすが、ここで、杉原は、近い将来、ドイツ軍がリトアニアに侵略すると熱く議論されている場面に直面する。ガノール家をお暇するとき、少年に趣味は何か、問うと、切手収集ですと答えが返ってきた。領事館にくれば、日本の切手を用意しておくと言うと、少年は、数日後、約束の切手を貰いに来た。

ここで杉原は少年に伝えた。**『家族や両親の友人にいいなさい。ここ リトアニアを出るのは、今だと。私なら商売のことなど考えないでしょう』** 少年が杉原の言葉を家族に伝え、家族は議論を重ねたが意見がまとまらず、最後に、父親が、国外避難は自分の店舗売却後にしたい、数か月待ってほしいと訴え、全員が賛同した。

それから暫くして、リトアニアはソ連軍に占領され、国外渡航は禁止となってしまった。その後、ドイツ軍に占領されることになる。第三国に避難しなかったガノール家はドイツ軍に捕まり、次々と強制収容所をたらい回しされ、家族はばらばらになってしまった。最後の**“ダッハウ強制収容所”**（ドイツ ミュンヘン市郊外）**で** 1945 年 5 月 2 日、残雪がある中を行進させられたガノール少年は疲れて倒れ、グループに置き去りにされてしまった。

暫くすると米陸軍；第 442 連隊戦闘団所属、第 522 野戦砲兵大隊（第二次世界大戦中、強制収容所に追いやられた家族の名誉のために、祖国 アメリカへの忠誠を誓い、戦闘に命を賭けた日系二世部隊）が現れ、彼らに救出された。ソリー・ガノールに近づきチョコレートを差し出してくれたクラレンス・マツナガ軍曹は、杉原千畝と同じく日本人の顔であった。

しかし、日系アメリカ人部隊が “ダッハウ強制収容所” 掃討作戦の中心的役割を果たした事実は米国内では “厳秘”扱いにされ 1992 年ジョージ・H・W・ブッシュ政権下まで公表されなかった。日系アメリカ人部隊が、アメリカのためにドイツ軍と戦い、生命を落としつつあるときに、祖国のアメリカでは彼らの家族の多くが辺境の抑留所に押しこめられている、この矛盾に向き合うのにアメリカ政府は時間を要したのだろう。

ソリー・ガノールは、自著（日本人に救われたユダヤ人の手記—Light One Candle）

で米軍二世部隊と杉原千畝に以下の言葉を捧げている。
『本書を、ナチの手にかかって生命を落した愛する人びとの思い出に捧げる。そして、大いなる感謝をこめて、クラレンス・マツナガをはじめとする、第 522 野砲大隊の勇士たち全員に、さらには、その輝ける精神的模範によって、ホロコーストの暗黒の歳月を生き抜く私の導きの星になってくれた、杉浦千畝氏に捧げる』　　完

参考資料：

In Search of Sugihara by Hillel Levine
千畝　一万人の命を救った外交官　杉原千畝の謎　清水書院
命のビザ、遥かなる旅路　北出昭著　交通新聞社新書
命のビザを繋いだ男　小辻節三とユダヤ難民、山田純太著、NHK 出版
The Economist, September 24th, 1994
TIME, October 3, 1994
歴史街道、杉原千畝とサムライたち（命のビザを繋いだ奇跡）、November, 2013
Chiune Sugihara, Visas for Life published by “Versus Aureus”
ユダヤ難民を救った男　樋口季一郎伝　木内是壽　アジア文化社
決断　命のビザ　杉原幸子編集/渡辺勝正著　大正出版（株）
Wikipedia-Aristides de Souza Mendes
外務省革新派　世界新秩序の幻影　戸部良一著、中公新書
後藤新平　北岡伸一著　中公新書
日本の参謀本部　大江志乃夫著　吉川弘文館
日本人に救われたユダヤ人の手記　ソリー・ガノ-ル著　講談社
ヒトラーに傾倒した男、A 級戦犯・大島浩の告白　増田剛著、論創社
Japan’s Unwitting D-Day Spy by Charles Fenyvesi
「命のヴィザ」言説の虚構　菅野賢治著　共和国出版社

****

「了解日本」(「日本を知る」（第１０回）　　俞彭年　（８６歳）

江戸文化の中の明・清文化

江戸時代、幕府は中国の諸王朝と政治的な取引や対立はなかったが、中国大陸の情勢や動きには大いに関心を寄せていた。そのため、幕府は長崎の唐通事（中国語の翻訳者、多くは中国人）に命じて、中国に関するあらゆる情報の収集に気を配らせた。唐通事は、長崎で交易する唐船や唐人からあらゆる情報を積極的に収集し、タイムリーに報告した。情報収集は、唐通事の重要な任務となった。このように、幕府は常に中国大陸の状況や動きをある程度把握していたのである。
鄭成功は何度も日本に人を派遣し、清と戦って明を復興させるために、幕府に出兵支援を頼んだ。幕府は議論と検討を繰り返したが、最終的には「日本には鎖国政策があり、幕府自身が策定した政策を破ることはできない」として、援軍派遣を拒否することを決定した。実はこれは表面的な理由で、本当の理由は、幕府が清国の実力を理解し、当時の清国や明国との闘いの状況を分析していたからである。
幕府は鎖国政策をとり、日本人の海外渡航を禁じ、中国とオランダの船舶が長崎に来て貿易をすることのみを許可した。貿易は主に物品であったが、多くのカテゴリ

一の書籍も多く輸入され、さまざまな領域の人の交流も行われ、これらは江戸文化勃興と発展に大きな刺激を与えた。

日本は輸入された文化を細かく吸収し、自分たちの創造を生み出した。そのため、よく見ると、明や清の文化やその痕跡が江戸文化にあることがわかる。輸入された中国の書籍を読むために、日本人は早くから「乎古止点」（文字の表意性と日本語の文法に従って漢語を読むこと）を発明したのである。

当然、この方法を使いこなすためには、勉強して一定のリテラシーを身につけなければならない。 江戸時代、「昌平坂学問所」、大名の「藩校」、市中の「手習い所」などで、「乎古止点」で漢文閲読の指導が行われ、また多くの民間の私塾の門下生が漢文を閲読するときに「乎古止点」を使っていた。

当時一定の水準の教育を受けていた人達は「乎古止点」方式で漢文を読み、教育水準の高い人は漢文の文章や漢詩を作ることができ、日本語でこれを「漢文素養」と呼んでいた。

鞭聲肅肅夜過河
曉見千兵擁大牙
遺恨十年磨一劍
流星光底逸長蛇

これは江戸時代の儒学者・歌人である頼山陽が詠んだ有名な漢詩である。_現在でも、多くの日本人が「乎古止点」と呼ばれる方式で、中国の唐詩を日本語で暗唱している。

江戸時代、漢籍（儒学、文学、医学など）の翻刻が盛んに行われ、初めて漢文に触れる人にもわかりやすいように、翻刻に「乎古止点」をつけ、それらを「和刻本」と呼ぶようになる。

「和刻本」は大量に出回り、江戸時代の中国学問の隆盛を反映させた。しかし、漢文が読めることと、中国語を話せることは別であり、読むのは得意でも話し言葉は話せないという人も少なくなかった。 そのため、日本人の中には、唐通事や来日した黄檗宗の僧から話し言葉の中国語を学んだ者もいた。

儒学者の荻生徂徠は、中国の僧侶、悦峰道章に会ったとき、「私は前年の時に唐の言葉を少し学んだが、それは鳥の言葉のようなものだった」と、次のように書き残している。 書くことはできても、いざ話すとなると、話せなかったのである。″ 唐通事をしたことがある長崎出身の儒学者・岡島閑山は、当時、唐話（中国語）の専門家として名声を博していた。 彼は唐話の「唐話纂要」や「唐譯便覧」などの教科書を出版し、また、日本語で、「通俗忠義水滸伝」と題した、中国の古典『水滸伝』を翻訳した。

日本で広く知れ渡っている『三国志』『西遊記』『水滸伝』『金瓶梅』は四大奇書と位置づけている。

水滸伝は江戸時代の文芸に大きな影響を与え、誰からも愛される国民文学になり、これ以外にも多くの翻譯本があった。作家、曲亭馬琴が執筆した『南総里見八犬伝』という有名な作品は、水滸伝の影響が明らかに見られる。作家の建部綾足は『本朝水滸伝』を執筆している。

明代の曲瑜『剪燈新話』、清代の紀昀『閲微草堂筆記』、清代の普松齢『聊斎志異』などの伝奇小説は、日本でも広く知れ渡り、江戸時代の文学に大きな影響を及ぼした。

作家の浅井了意が『剪燈新話』に大きな影響を受けて書いた怪奇小説集『伽婢

子』があるが、実際 18 編は『剪燈新話』を翻訳した内容で、人名、地名、時代などは日本版に変えられているので、表面上は『剪燈新話』の中の話の翻訳版とは見えず、日本人が特に好きな『牡丹灯籠』は『剪燈新話』の中にある『牡丹灯記』の日本語翻訳版である。『伽婢子』は江戸時代の伝奇小説の先駆けとなるほどの影響力を持った作品である。

作家、上田秋成の小説「雨月物語」の中の「蛇性の淫」は中国の民話「白蛇伝」の日本語翻訳版であり、上田秋成が中国の白話小説に熟知していたことがうかがえる。

俳人松尾芭蕉が書いた「奥の細道」の冒頭には、中国の詩人李白の「天地は万物の敵、光と時は百代の過客」(桃梅園春夜宴序文)の影響がはっきりと出ており、また松尾芭蕉が松島の美しい風景を見て、中国の洞庭湖や西湖に劣らない美しい風景だと思い、美しい風景を見ても詩を書かなかった中国の文人たちを真似て、「奥の細道」では、自作の詩は書かなかった。

近松門左衛門の創作の「浄瑠璃」、『国性爺合戦』で描かれたのは平戸に生まれた鄭成功の物語であり、初演で成功を収め、17カ月にわたって上演された。その後、歌舞伎に移行し同じタイトルで上演され、こちらも大成功を収めた。

江戸時代の日本画壇は、中国画の新しいスタイルを吸収し続け、新しい画派を生み出していった。清朝の画家、沈泉(南蘋)は、鳥や花、動物を端正かつ豊かに描き、1731 年に弟子たちを連れて長崎に、2 年近く滞在した。その画風は日本画壇に大きな刺激を与え、彼の画風を踏襲する人も多く、中でも有名なのが絵師円山応挙で、彼は独自の画派「円山派」も設立している。

清朝の商人で画家の伊海(孚久)は、1720 年に 2 度長崎にやってきて、1 年滞在している。彼は中国の文人画を自ら描くだけでなく、絵画の解説書や技法書を長崎に持ち込み、日本の絵画界に大きな刺激と影響を与えた。そのため、中国の題材をモデルにして文人画を描く日本画家が現れ、日本における文人画の流派が形成され、有名な池大雅は中国の題材だけでなく日本の題材も描き、他の画法も吸収して独自のスタイルを確立していったのである。

松尾芭蕉の弟子、与謝蕪村は中国の文人画を独学で学び、独自のスタイルを確立し、日本を題材とした文人画を多く描き、しばしば漢詩を添え、池大雅とともに「十便十宜図」を制作した。　　(この項、6月号につづく)

****

有楽町　慕情　(7)　　津田孚人(85歳)

「軍に協力、そして終戦」

昭和11年11月11日、第一生命は、社長の意を踏まえ、「建築中の新社屋は建築的構造としては充分に堅牢だと思うが、軍としての別の意向があれば受け入れる」と陸軍築城本部に伝えた。この日を境として終戦に至るまで、陸軍との間にはいろいろな形で深い関係が出来上がっていった。

11月20日、早速、一階の床と屋上階を補強せよとの指示が来た。一階の床は、厚さ25cmを60cmに変更、屋上床は、その後の研究で翌12年5月に40cmと決定した。さらに、その中に加えられる鉄筋量は、1 階は 5 割、屋上は10割、増強された。

11年7月7日、日支事変が勃発すると、金属物資の統制令が実施されたが、早く

手当てがなされていたので、支障は殆どなかった。

そのころ、築城本部、技術本部、科学研究所関係者の視察があり、毒ガスに対する防毒室の設置が計画され、地下室を安全に護ることにしていた。
８月には、滋賀県饗庭野陸軍演習場で、極秘裡に爆撃の実験が行われた。「第一生命館」の屋上階の床と同じ構造の建物の屋根は、コンクリートは飛散したが鉄筋は抜けず、爆弾の貫通を防ぐことが分かった。
　このような内輪での諸事は、世間には全く現れず、１３年１１月３日、「第一生命館」の修祓式と竣工式を迎え、社員一同新天地にたつ思いの慶びを大いに味わった。新館の披露は１１月中、１０日間にわたって行われ、朝野各界、軍関係者、建設業界等をも含めて、来客数は3万数千人に及んだ。
　設備、機械は当時最高のものが設置された。地下室には暖房冷房用の機械。停電に備えての自家発電機、大変電室等があり、電力は外部から2万５千ボルトの高圧を受け入れていた。館内の電灯数は、５千、地下室には健康のため特に太陽光線球をつけた。地下４階に中央監視室を置き、欧米で使われ出した、ワンマン・コントロールの設備を作った。当時、これを見た参観者は、みな驚嘆した。
　また、地下二階を配管の専用階とした。大抵のビルでは配管配線は天井とその上の床の間で処理されたが、高層ビルでは所々に専用の特別階・ダクトフロアーを設ける、その初めての試みだった。珍しい設備では、冷暖房の空気を送る気送管、郵便物専用の送付管、（葉書、封筒など専用で中央エレベーターホールの脇に設置されていた）があった。
　従来のビルに比べると設備関係の機械類が非常に多く、その分量は中型の駆逐艦の機械量をしのぐほどだったので、特別に軍艦の艦長を経験した退役海軍大佐を本館管理部長に迎え、機関長以下、部員全員を海軍出身者にして、管理に当たってもらった。
　さらに、部屋に余裕があったので、一つの館内で働き、学べるようにと女学校を作り、学校名を日比谷女学校として小学校卒業の女子事務職員に夕食を支給して、女学校過程が習得できるようにした。
　校長には、当時の石坂泰三社長がなり、主事は東京女高師から迎えた。しかし戦争のために閉校となり、長くは続かなかった。

　戦争の影響は、昭和１７年から出始めた。４月１８日、初めて京浜地区に敵機が侵入、翌日、東部軍管区司令部より防空のために屋上に建物増設の要請があった。
　１８年３月、増築工事を始め、５月に帝都防衛部隊の高射砲部隊が着任、高射砲４門が据え付けられ、６月から常駐した。

昭和１９年、地下二階の配管層にＮＨＫの非常放送設備や新聞社の写真電送機械などの重要施設が入り、ＮＨＫは、ラジオ放送が途絶えた時の予備設備の準備をした。
８月、遂に6階以上を軍に提供せよとの命令があり、６階にあった社長室を急遽５階に移し、６階の会長室に東部軍管区司令官田中静壹大将が、5 階の社長室には参謀長が入り、東部軍管区司令部が設置された。６階には、会長私室の日本間があったが、田中大将は終始そこで起居していた。
　同時に政府の各省からも部屋の貸与を迫られたが、すでにいっぱいであり、各省の連絡員だけを一部入れることにして落着した。

昭和２０年５月２５日、Ｂ２９が宮城を攻撃したとき、屋上の高射砲部隊は、必死の応戦をした。警視庁は、地下４階の中央監視室の一隅を国賓、その他の貴賓の待避場所として使用、空襲警報が出るとホテル等から直ちに案内してきたが、印度のチャンドラ・ボース、ビルマのバーモー首相なども来た。

８月１５日、終戦の詔勅が放送された。
この時のことを、「第一生命館の履歴書」で矢野一郎は、以下のように書き記している。
「その前夜、青年将校等の一群が放送用の玉音原盤を奪おうとして宮城に乱入した。急を聞いて田中静壹大将は直ちに馳せつけ、反乱軍を鎮圧して陛下に拝謁し、お言葉を賜って退出、爾後、責任の軍務を完了して、マッカーサー元帥飛来が予定されていた２４日の２３時１０分、日本間にて端然自決して武人の最期を飾られた。」

「第一生命館」は、日本軍の城となって日本国の敗戦に立ち合い、戦後は占領軍の城となって占領統治の中心地となった。そこには、戦火を免れた運の良さと、戦後、素早く「第一生命館」を、荒廃から守るためには総司令部の本拠にと狙いを定めた、矢野一郎（当時は常務）の機転が大きく寄与したといえる。
もし、一番先に接収を告げた第一騎兵師団の本拠となっていたならば、「第一生命館」の歴史は大きく変わり、また、進駐軍の占領政策遂行にも、何らかの影響を及ぼしたと想像される。
「矢野一郎の機転」には、父親である矢野恒太が建てた「第一生命館」を護りたい、という私的なものと、戦争に加担した企業として役員全員が退職し、会社解散というような心配があったと予想される。
「第一生命館の履歴書」を読むと石坂（泰三）社長の名は、あまり出ない。登場は、昭和１３年、「矢野社長は石坂専務にバトンを渡し・・・」と社長を引き継いだ時、「これは、石坂専務が米国において同社を訪問して決意され・・・」とある新館の新設備としてＩＢＭ統計機械採用の時、「石坂社長の学友だった退役の海軍大佐・・・」と本館管理部長を採用する時、「校長には石坂社長があたり、主事には東京女高師から・・・」と女学校設立の時、の都合４回のみである。いずれも、軍部とは関係ない、社内の出来事であった。
石坂泰三が、逓信省を退任して第一生命へ入社したのは、大正４年（１９１５年）の９月。社長の矢野恒太の秘書役としてであった。矢野から社長を引き継いだのが２３年後の昭和１３年（１９３８年）１１月。戦後になって昭和２１年（１９４６年）１２月、矢野恒太会長が会長を辞任、石坂社長も社長を辞任した。二人とも昭和２２年１月、公職追放の憂き目にあった。しかし矢野一郎常務をはじめとした他の役員は追放を免れた。（つづく）
****

講演会のご案内

****
新三木会
●**第１３６回・講演会・**
日時：**５月１８日（木）　13：00～15：002F　（15:20 から茶話会）**
講師：五百旗頭(ｲｵｷﾍﾞ) 眞氏　神戸大学名誉教授、防衛大学校名誉教授

演題：『激動の世界と日本』
会場：神田・一橋・如水会館
会費：２千円
申し込み先：https://forms.gle/wXc3pTEPdy4vuetj6
または、メール shinsanmokukai@gmail.com
申し込みの際は、天地シニアネットワーク会員、又は見たと伝えてください。会費は現地でお支払いください。

●５月以降の予定
６月２０日（火）「財政、金融は持続可能か」
講師：藤巻健史　経済評論家
７月２０日（木）「激化する戦略的競争時代の核政策」
講師：秋山信将　一橋大学法学部教授
８月１７日（木）「大学の国際化について」
講師：鈴木典比古　元国際基督教大学学長

****

事　務　局

****

天地シニアネットワーク事務局　（津田　孚人）
住所：〒１１６－０００１荒川区町屋３－２－１１６
ライオンズプラザ町屋７０３
メールアドレス：tentisenior06@gmail.com
電話・FAX：０３－３８１９－７６５１
電話・FAX：０３－３８１９－７６５１